

能代市バスケの街づくり推進計画の点検及び推進に関する報告書（写）

能代市バスケの街づくり推進委員会は、「能代市バスケの街づくり推進計画」の3～4年目の点検・推進を市と協働で行ってきました。その結果をまとめ、別紙資料を添えて報告します。

1 2年間の委員会の活動について

1～2年目の実績や課題を踏まえ、街づくり参加、商品開発、情報発信等を行った。

（1）バスケの街動画の制作・募集（バスケ突撃隊、動画コンテスト）

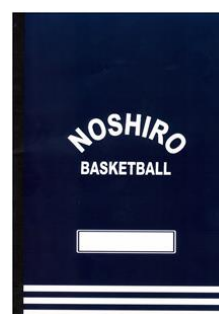


バスケの街のしろのサッカー少年

（2）イベント参加（食と健康イベント「市～いち～」でのチラシ配布、シュート体験等）



（3）バスケの街ロゴマークを活用した商品開発への協力（Tシャツ、バスケノート）



2 街づくりの指標について

推進計画のゴールに近づいていることは確認できた。今後は中間年である5年目の推進状況の点検に加え、これまでの成果の検証、さらなる取組の検討が必要である。

また、指標の目標値については、推移をみながら、引き続き委員会で検討していくこととした。

3 2年間の総括と今後の方向性

バスケの街づくり市民チャレンジ事業補助金やイベント・行事等の企画をきっかけに、競技関係者以外の市民等においても新たなバスケの街づくりの取組が生まれてきているが、活動の広がりにつながっていない面がある。また、指標の数値などから見ても、市民の関心が高まっていない状況にある。

そのため、今後は市民等が開催している取組と合わせて、関係団体等との連携を深めながら、外部へのアピールを強化する必要性が感じられる。

(1) バスケミュージアムの機能強化と対外的なPR強化について

来館者から、狭い、ボリュームが少ないなどの声も寄せられていることから、拠点となるミュージアムの機能向上、拡大や移転、駐車場も含めた機能強化が必要と考えられる。

また、インバウンド対応が可能なコンテンツであるため、多言語での情報発信のほか、屋外リングを含めた施設の補修等、街なかでバスケを感じられる景観づくりも必要である。

さらには、外から人を呼ぶだけでなく、市民を外へ連れて行き交流で交流を呼ぶなど、交流人口を増やし、注目度を高めるためにもインパクトのある施策が必要である。

(2) バスケの街づくりへの協力体制について

徐々に人的ネットワークが形成されてきているが、参加人数等についてはまだ課題が多いため、ボランティアとしてのイベント参加という点での継続性、組織化等の仕組みづくりの検討が必要と考えられる。

(3) 競技力の向上について

秋田ノーザンハピネッツや能代工業高校への支援拡大を図りながら、一般も含めた各カテゴリーへの支援やさらなるクリニック等の実施についても検討が必要と思われる。

また、東京オリンピック・パラリンピックに向けた事前合宿誘致等、関係団体等と協力して取り組んでいく必要があると思われる。

(4) 平成29年のメモリアルイヤーについて

第30回能代カップ、能代工業高校全国大会初優勝から50年目の記念となる平成29年には、バスケットロードフェスティバル等のコンテンツ力の強化を図るとともに、これまで行ってきた取組を集中的に行うなど、全市をあげた施策が必要である。

平成28年3月18日

能代市長 齊藤 滋 宣 様

能代市バスケの街づくり推進委員会
委員長 石井 一 生